

令和五年度本所中学校卒業式 式辞

はじめに、本日、卒業の佳き日に当たり、墨田区長 山本 亨 様、墨田区教育委員会教育長 加藤裕之 様からお祝いのご挨拶を頂戴しております。更にまた、本校PTA会長 一口 学 様をはじめ、日頃より、多大なるご尽力を頂いております、ご来賓の皆様方にご臨席を賜り、盛大に卒業式を挙行できますこと、誠に有り難く、心より感謝を申し上げます。

さて、第七十五回卒業生諸君、卒業おめでとうございます。諸君は今、卒業に当たり、何を思うのでしょうか。きつと、この三年間、学業に頑張ってきたことを思い出し、卒業の門出の喜びと別れの悲しみが一緒になった気持ではないでしょうか。

ときに、本校の校訓は、「学びあう」であります。ヒトが学びあうことは、これからの生涯学習社会の時代において、諸君の可能性を開花するとともに、どんな困難をも克服して、明るい社会と幸福な人生を作ることに繋がります。ヒトが学びあうことは、大昔から今日にいたるまで、人間社会が発展してきた原動力だといえます。そして、ヒトが学びあうためには、どの時代にあっても、困難に打ち克つ情熱が必要です。

例えば、二百万年前、ヒトは困難な自然環境の中で進化しました。ヒトは直立歩行をするようになり、前足であった手を使い、道具を作り出しました。現代のAIコンピュータもヒトが作り出した道具ですが、最初に、自然界の中でヒトが生存するのに役に立った道

具は、弓矢等の原始的な武器です。ヒトは、この武器を使ってチータやライオン等の猛獣を撃退し、猛獣から食べられることはなくなりました。更に、武器を使って集団で狩りをする仕方を習得し合いました。やがて一万年前から、協力して農耕や牧畜をする仕方を学びあい、食糧を確保するとともに、古代社会を形成してきました。この背景としては、ヒトが直立歩行をしたことにより、声を出すための声帯が発達し、複雑な音声を発して、コミュニケーションを交わすことで大きな脳を持つようになり、言葉や文字が生まれたことがあります。言葉や文字がヒトの学びに大いに役立ちました。こうして過酷な自然環境の中でも、ヒトは生き抜くための知恵や技術を学びあい、文化文明を作り出し、今日まで営々と社会を築き上げてきたのです。

ところで、卒業生諸君は、本日、中学校を卒業すると、もはや今までの少年少女の時期ではなく、青年期への第一歩を踏み出すことになります。いよいよ一人の若者として、青春時代の始まりです。青春はいいものです。しかし、大変です。青春時代は誰にとっても挫折の連続だからです。それでも挫折を乗り越えるところに青春の素晴らしさがあります。

フランスの哲学者サルトルは、青春の真っ只中にいる若者は、一見、心が冷めているようでも、年老いた老人になってみると、確かに、あの若い時、心の内に灼熱に輝く情熱があったことに気付くのだと言っています。また、アメリカの詩人サミュエル・ウルマンは、青春とは、人生のある期間を言うのではなく、人間が

情熱を燃やし、人生を創造していく心の在り方であり、人間の生き様そのものだ。だから、年を重ねただけでヒトは老いるのではない。ヒトが挫折に打ちひしがれ、ついに、情熱を失う時に、初めて青春はしほみ、ヒトは老いるのだと訴えかけています。

若者は皆、可能性の塊であります。心の内には静かに、情熱が輝いています。情熱は、希望と失望を繰り返しながらも、若者にとって、可能性や豊かな人生を探究する原動力となります。

卒業生が巣立っていく、これからの世の中は、急速に変化する生涯学習社会であり、持続可能で、皆が共に生きる、共生社会の実現が求められています。

かつての二十世紀のように、多くの人々が、生涯一つの職業に従事するのではなく、急速な技術革新に伴い、常に新しいスキルを学び、人生の節目、節目において、学び直しが求められる時代です。このような中であって、常に学び、また、学び直しをするためには、情熱というエネルギーが必要です。

卒業生にとって、これからの百年人生において、時には、病気や怪我等、何らかの困難に直面し、情熱が萎えることもあるでしょう。そんな時は、しっかりと心身を休め回復を図ることが肝心です。そしてまた再び、情熱を心に宿し、一步一步、歩み出していきましょう。ありませんか。どんな年齢になっても情熱をけっして忘れないことです。今日から八十五年後には、卒業生は百歳になります。百歳になった時、情熱を失わず、学びを絶やさなければ、青春時代の真っ只中を生きて

いる若者と同じように、人生を歩んでいることになりました。ですから、是非とも八十五年後、情熱に満ち溢れた百歳の若者になることを目指そうではありませんか。このことを全卒業生に期待しています。

結びとして、保護者の皆様申し上げます。お子様のご卒業、誠におめでとうございます。卒業までの三年間は、思春期葛藤の少年少女から若者へと大きく変貌を遂げる時期でありました。また、コロナ禍を経験しました。それだけに、ご心配も多かったかと存じます。しかしながら、そんな時も絶えず、本校の教育に、ご理解とご協力をお寄せ頂き、誠に有り難うございました。ここに深く感謝を申し上げます。

以上をもちまして、卒業生の門出を祝福し校長式辞といたします。

令和六年三月十九日

墨田区立本所中学校長 松井 隆